

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標 主体的な学び，豊かなまごころ，健やかな体を持ち，地域とつながりよりよい社会と未来の創り手となってたくましく生きる児童を育成する。

目指す児童像

- ・ 進んで勉強する子ども（かしこく：知）
- ・ 思いやりのある子ども ・ 喜んで働く子ども（なかよく：徳）
- ・ 健康で明るい子ども（たくましく：体）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「まごころふれあう城山中央小学校」

—よりよい社会と未来を創る児童が仲間と楽しく学び，居がいをを感じる学校づくり—

- ・ 児童が仲間と楽しく学び，居がいをを感じる学校
- ・ 教職員が児童とふれあい，教え育てる喜びを感じる学校
- ・ 保護者や地域住民から学校の取組に信頼が寄せられる学校

以上の実現を目指し，学校が家庭や地域と手を携え，まごころふれあう学校経営を展開していく。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1） 児童が仲間と楽しく学び，居がいをを感じる学校づくり
 - ① 児童一人一人が自ら考え活動する主体的な学びの実現を図るため，協働して学びに向かう集団をつくる学級経営の充実を基盤とした教育活動を展開する。
 - ②○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して各教科固有の楽しさを味わい「見方・考え方」を働かせる学習活動により，考えや理由を明確にできる思考力等を育む。
 - ③○児童が人や自然とのかわりを通して主体的につながる規範意識，思いやりや自然愛護等のまごころを培い，活動の源となる体力の向上に努める。
- （2） 教職員が児童とふれあい，教え育てる喜びを感じる学校づくり
 - ① 課題解決に協働する教職員集団づくり及び主体的に指導力を向上する人材育成に努め，チームとしての学校力を高める。
 - ② 働きがいと豊かな生活の調和を意識しながら職務を遂行できるように，働き方改革を継続する。
- （3） 保護者や地域住民から学校の取組に信頼が寄せられる学校づくり
 - ① 歴史と伝統を踏まえ，教育の精神や校風を継承し，GIGA スクールの構想やSDGs等を視野に入れた発展に努める。
 - ② 社会に開かれた教育課程を具現化するために，地域の教育力を生かした教育活動を充実する。
 - ③○学校園教育ビジョン小中一貫教育を推進するとともに，学校園との連携による地域の特色を生かした教育を推進する。

【城山地域学校園教育ビジョン】

ともに学び合う城山つ子を育む地域学校園

みんなで育てよう！自分を愛し，仲間を愛し，地域を愛する城山つ子

4 教育課程編成の方針

日本国憲法，教育基本法，学校教育法，小学校学習指導要領，栃木県「指導の指針」，「宇都宮市学校教育推進計画」・「宇都宮市学校教育スタンダード」・「指導の重点」に基づき，教育目標達成のための経営方針や努力点，学校評価の反省を十分踏まえて編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- （1） 学校運営 ○学ぶ楽しさ，仲間がいる楽しさ，居がいのある学校づくりの推進
- （2） 学習指導 互いに認め合い，主体的に学ぶ児童の育成
～自己表現しながら 生き生きと学び合える 指導の工夫を通して～
- （3） 児童生徒指導 ○思いやりの心を持ち，自主的・主体的に行動ができる児童の育成
～人との関わりを深める活動を通して～
- （4） 健康（体力・保健・食育・安全） 健康や安全，運動について仲間と学ぶ児童の育成
～活動量を確保した体育授業の実践や体を動かしたくなる体育環境の整備を通して～

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価								
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	・児童一人一人が考え、自ら活動する主体的な学びの実現 ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、それらを活用する力の育成 ・各教科等の「見方・考え方」を働かせた、学び合いなどの協働的に課題を解決する学習活動の充実 ・探究心をかき立てる体験活動の工夫	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>8 6 . 6 % ↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>8 2 . 5 % ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>9 4 . 4 % ↑</td></tr></table> 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得が十分ではない児童もいるが、授業中などにおいて落ち着いた態度で学習に取り組んでいる。 【次年度の方針】 ・具体的な取組を継続し、基礎・基本をしっかり身に付け、自分の考えを表現できるよう根気強く支援を行う。 ・話し合いやグループワークの活動の機会を増やすことで、協力して学習することの良さや、主体的に学ぶことの大切さを実感できるようにする。	児 童	8 6 . 6 % ↑	保護者	8 2 . 5 % ↑	地域住民		教職員	9 4 . 4 % ↑
児 童	8 6 . 6 % ↑											
保護者	8 2 . 5 % ↑											
地域住民												
教職員	9 4 . 4 % ↑											
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・人権教育の推進 ・人権感覚・人権尊重の態度の育成を目指した指導の充実 ・教師一人一人の意識の高揚 ・人権週間・いじめゼロ運動の効果的な実施 ・望ましい集団・居がいのある学級づくり ・学級活動やなかよし班活動での「みんなで遊ぶ日」の時間の工夫と充実 ・なかよし班を通した縦割り班活動の工夫と活性化（まごころ清掃） ・状況に応じた言葉遣いの励行 ・自然や人との関りの両面から児童の主体性と豊かな心を育て、まごころ教育を進める。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>9 3 . 3 % ↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>9 5 . 4 % ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>1 0 0 %</td></tr><tr><td>教職員</td><td>1 0 0 %</td></tr></table> 学校目標に応じて、各学級で居がいのある学級づくりに努めた結果、児童・保護者ともに数値が上がった。 【次年度の方針】 ・引き続き、HP や回覧板等で、学校の取組について地域や保護者に周知をしていく。 ・縦割り班活動を活用できるような取組を引き続き検討していく。	児 童	9 3 . 3 % ↑	保護者	9 5 . 4 % ↑	地域住民	1 0 0 %	教職員	1 0 0 %
児 童	9 3 . 3 % ↑											
保護者	9 5 . 4 % ↑											
地域住民	1 0 0 %											
教職員	1 0 0 %											

	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的解答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・折れない心・やり抜く心など心のたくましさに気付かせる授業の展開や実践の工夫 ・各種検定等，児童が目標を持って取り組める機会の確保 ・児童が互いに認め合う場の設定 ・児童の頑張りを認め，校外に発信していけるような取組の充実	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>87.7%</td><td>↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>83.1%</td><td>↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>83.3%</td><td>↓</td></tr></table> 保護者の肯定的回答が数値指標を3.1ポイント上回った。これは，HP等で児童の頑張りを発信してきたことにより，保護者にも学校で前向きに取り組む様子が伝えられた成果だと考える。児童・教職員の肯定的回答は数値指標を下回ったが，昨年の達成を踏まえ，より高い目標を目指した影響もあると考える。 【次年度の方針】 ・心のたくましさに気付ける授業の展開や実践の工夫を継続しつつ，校外への発信を行い，児童の頑張りを様々な視点から認められるように情報を共有できるようにする。	児 童	87.7%	↓	保護者	83.1%	↑	地域住民			教職員	83.3%	↓
児 童	87.7%	↓													
保護者	83.1%	↑													
地域住民															
教職員	83.3%	↓													
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は，健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	・自己の基本的な生活習慣を見直し，改善が図れるような指導の工夫と児童や保護者への啓発 ・養護教諭や学校栄養士と連携した保健の授業や特別活動等における食育の実施 ・委員会活動を通じた健康や体力向上，食に関する啓発活動の実施 ・各種たより等を活用した健康や食への関心を高める工夫 ・体育の授業，体育的行事を核とした体力づくりの実践 ・各種検定や全校で取り組む体力向上のための行事の実施 ・元気っ子健康体力チェックの活用 ・地域と連携した登下校時の安全確保 ・交通安全教室や各種避難訓練等の適切な実施	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>91.6%</td><td>↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>89.4%</td><td>↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td><td>↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>88.9%</td><td>↓</td></tr></table> 児童・保護者・地域住民いずれも数値指標を上回った。校外に向けた情報の発信や，日々の保健指導の成果であると考え。ただし，教職員の肯定的回答の割合は数値指標を1.1ポイント下回ることとなった。遊具でのけがが目立ったことが一因であると考え。 【次年度の方針】 ・引き続き，日々の健康や食育に関する取組を実践し，校外に発信していく。 ・発達段階に合わせて，各教科，学級活動における養護教諭や学校栄養士と連携した授業を実施し，家庭でも振り返れるような取組を行っていく。 ・体育の授業でのがんばりカード等を活用し，児童が目標をもって，楽しみながら継続的に体力向上に取り組めるように支援を続けていく。 ・地域と連携した登下校指導を継続していく。 ・健康で安全な生活について，日常生活の中で常時指導を続けていく。	児 童	91.6%	↑	保護者	89.4%	↑	地域住民	100%	↑	教職員	88.9%	↓
児 童	91.6%	↑													
保護者	89.4%	↑													
地域住民	100%	↑													
教職員	88.9%	↓													

1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・係や当番等での自分の役割を自覚し、友達と協力して活動できる場の設定 ・キャリアパスポートの有効活用 ・学校活動全般を通してまごころ教育の充実を図る ・日常の清掃、まごころ清掃、みんなで遊ぶ日等におけるまごころ班活動の活性化 ・緑の少年団活動の工夫	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>85.5%</td><td>↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td></td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td></td></tr></table> 宮・未来キャリア・パスポートの振り返りや指導が不十分だったので、児童の肯定的回答が数値目標を下回ったと考えられる。 【次年度の方針】 ・宮・未来キャリア・パスポートを効果的に活用し、児童が目標をもって活動したり、頑張ったことや自分の取組の良さを実感したりできるようにしていく。 ・縦割り清掃やまごころ清掃だけではなく、異学年での交流に積極的に取り組めるように、検討していく。	児 童	85.5%	↓	保護者			地域住民			教職員	100%	
	児 童	85.5%		↓												
	保護者															
地域住民																
教職員	100%															
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	・外国語科や外国語活動の教材の充実・環境整備 ・コミュニケーション能力の育成を目指した言語活動の充実 ・外国語学習を補完する授業内容の充実 ・授業における積極的なALTとの交流の機会	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>84.4%</td><td>↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td></td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>83.3%</td><td>↓</td></tr></table> 英語の授業において、ペア・グループでコミュニケーションを取る活動を取り入れていることもあり、英語を話せたという達成感を持つことができた。 【次年度の方針】 ・外国語活動、外国語科の教材の工夫や環境整備に努め、さらなる指導の充実を図っていく。 ・ALTとも連携し、コミュニケーション能力の育成を目指した言語活動を多く取り入れることを意識し、授業の工夫・改善に努める。	児 童	84.4%	↑	保護者			地域住民			教職員	83.3%	↓
児 童	84.4%	↑														
保護者																
地域住民																
教職員	83.3%	↓														
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	・生活科・社会科・総合的な学習の時間（宇都宮学）や校外学習等における指導内容の工夫や改善 ・宇都宮や城山地域など郷土への愛情を育む学習の推進	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>92.2%</td><td>↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>68.3%</td><td>↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>94.4%</td><td>→</td></tr></table> 宇都宮学や総合的な学習の時間での地元大谷の調べ学習を行った結果、児童・保護者ともに数値が上がった。 【次年度の方針】 ・現在行っている様々な取組を継続し、地元大谷を中心として、宇都宮に対する知識理解をさらに身に付けられるように努める。	児 童	92.2%	↑	保護者	68.3%	↑	地域住民			教職員	94.4%	→
児 童	92.2%	↑														
保護者	68.3%	↑														
地域住民																
教職員	94.4%	→														

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・デジタル教科書、AIドリルの活用 ・クロームブック・デジタル機器を活 用した授業の展開 ・情報モラル教育に関する授業の展 開 ・学習内容の時期に合わせた関連図 書の整備と活用 ・市立図書館を利用した学級文庫や 調べ学習用図書の充実	B 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>91.1%</td><td>↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>85.7%</td><td>↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td></td></tr></table> 授業に加え、委員会活動や係活動でI C T機器を積極的に活用したことで、児 童の実感としては十分な結果となった。 【次年度の方針】 ・I C T機器を児童が進んで活用でき るような環境や手立てを工夫していく。 ・図書館司書と連携し、本校の充実した 図書資料をさらに活用することができ るような授業の取り組みを工夫・改善し ていく。	児 童	91.1%	↑	保護者	85.7%	↑	地域住民			教職員	100%	
児 童	91.1%	↑													
保護者	85.7%	↑													
地域住民															
教職員	100%														
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	・節電・節水・牛乳パックのリサイク ル活動の実施 ・「緑の少年団」活動を通した自然愛 の醸成 ・各教科や日常生活の中でのS D G sを意識させる指導の工夫や掲示 物などの環境作り ・土砂災害を想定した避難訓練の実 施 ・自然災害を取り上げた学習内容の 工夫	B 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>93.9%</td><td>↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>地域住民</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>教職員</td><td>83.3%</td><td>↓</td></tr></table> S D G sへの関心が高く、各教科の学 習の中でも取り上げる機会が多かった。 教材や配付物等では、ペーパーレス化が 進められていた。 【次年度の方針】 ・次年度も環境問題や防災等について 取り上げ、各教科において指導を継続し ていく。学んだことを実生活の中で生か せるように指導をしていく。	児 童	93.9%	↑	保護者			地域住民			教職員	83.3%	↓
児 童	93.9%	↑													
保護者															
地域住民															
教職員	83.3%	↓													
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A 10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・個別の指導計画による指導の充実 ・学級との交流や連携を図った指導 の推進 ・特別支援教育コーディネーターを 中心とした教育支援委員会の開催 と共通理解 ・多様なニーズの理解と支援方法の 明確化 ・学級における配慮児童の「かがやき ルーム」の活用個別の指導計画の策 定 ・ケース会議による指導方針・成果と 課題の明確化、及び情報共有	B 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>保護者</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>地域住民</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td></td></tr></table> 教育支援委員会などを開き、組織的な 対応ができた。また、かがやきルームを 通して、個に応じた支援の充実を図るこ うできた。ケース会議を適宜開催し、 情報の共有化を図ることで、円滑な児童 理解と支援を行うことができた。 【次年度の方針】 ・特別な支援を要する児童の実態を把 握し、個に応じた支援につなげられるよ う組織的な対応を充実させる。	児 童			保護者			地域住民			教職員	100%	
児 童															
保護者															
地域住民															
教職員	100%														

3-（2） いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	・「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組の推進 ・「いじめ等対策委員会」の活用 ・「いじめゼロ強調月間」及びいじめ撲滅集会の実施 ・定期的なアンケートの実施と教育相談の充実 ・潤いのある学校環境の整備 ・「さん」付けの呼び方の徹底 ・職員間での情報の共有 ・学校便りやホームページでの周知 ・道徳科の授業の充実	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>98.9%</td><td>→</td></tr><tr><td>保護者</td><td>70.2%</td><td>↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td></td></tr></table> 教職員は、いじめに対する危機意識を常に持って児童の指導にあたっており、児童も十分理解している。しかし、保護者の肯定的回答の数値の減少が見られた。 【次年度の方針】 ・問題が起きた場合は、その都度記録をとり、必要に応じて指導の経過を保護者に伝え、家庭と密に連携しながら基本方針に沿って指導にあたる。 ・学校での取組について、学校だよりやHP等で積極的に保護者に周知をしていく。	児 童	98.9%	→	保護者	70.2%	↓	地域住民	100%		教職員	100%	
	児 童	98.9%		→												
保護者	70.2%	↓														
地域住民	100%															
教職員	100%															
A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	・不登校・不適應等特別な教育的支援が必要な児童への対応（別室登校など） ・日常の観察・教育相談・Q-U調査等の実施による早期発見・早期対応 ・ケース会議等による支援方法の明確化 ・関係機関との連携と紹介 ・職員間での情報の共有 ・児童が互いに認め合う場の設定 ・認め励ます指導の徹底	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>97.2%</td><td>↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>87.7%</td><td>↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td></td></tr></table> 教職員は、日頃から児童の様子を観察し、必要に応じて、教育支援委員会やケース会議等を行い、学校全体で対応している。また個に応じて、保健室や図書室などの別室登校を行っている。 【次年度の方針】 ・来年度も引き続き、的確に児童の様子を把握することで、早期発見・対応に努める。必要に応じて家庭訪問の実施や面談を行い、家庭と連携しながら別室登校など、児童一人一人に合った支援を行っていく。	児 童	97.2%	↓	保護者	87.7%	↑	地域住民			教職員	100%		
児 童	97.2%		↓													
保護者	87.7%	↑														
地域住民																
教職員	100%															
3-（3） 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいそいそとした雰囲気である。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	・教育相談・いじめに関するアンケート・Q-U調査の実施により、学級内のよりよい人間関係づくりに努める。 ・児童一人一人を認め励ます指導を推進する。 ・職員間の情報交換の推進・機会の確保 ・適切できめ細やかな保護者への連絡による信頼関係の構築。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>96.1%</td><td>↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>87.7%</td><td>↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td></td></tr></table> 教育相談などの実施により、児童の実態の把握ができ、学級内のより良い人間関係づくりが充実できた。学級担任だけでなく、教職員全員で児童理解に努めようという雰囲気が作られていた。 【次年度の方針】 ・児童一人一人が生き生きと学校生活を送れるよう、職員間の情報交換の推進・機会の確保の充実を図る。	児 童	96.1%	↓	保護者	87.7%	↑	地域住民	100%		教職員	100%	
児 童				96.1%	↓											
保護者	87.7%	↑														
地域住民	100%															
教職員	100%															
3-（4） 多様な教育的ニーズへの対応の強化																

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A 14 教職員は、分かる授業 や児童にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 95%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	・指導技術の確立と授業時数の確保 ・教科担任制・IT 指導等の効果的实施 ・学校だより、ホームページ等による 学習についての情報提供 ・クロームブックの有効活用 (AI ドリ ルの計画的活用、学習の振り返り)	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>97.8% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>81.8% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> 習熟度別学習を取り入れたことで、児 童の理解度に応じたきめ細かい指導が 実現できた。また、AI ドリルを計画的に 利用し、基礎学力の定着を図った。動画 教材を活用することで、視覚的に分かり やすい授業を行い、児童の学習意欲を高 め、主体的な学習へと繋げることができ た。 【次年度の方針】 ・めあての提示・振り返りの充実ととも に、パソコンを活用した学習指導の工 夫・改善を図る。学力向上に向けた取り 組みをより積極的に発信する。	児 童	97.8% ↓	保護者	81.8% ↓	地域住民		教職員	100%
児 童	97.8% ↓											
保護者	81.8% ↓											
地域住民												
教職員	100%											
4- (2) チーム力の 向上	A 15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協し て業務に取り組んでい る。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 95%以上	・学校の諸問題への組織的な対応 ・学校行事の準備・運営等への協力 ・若手の先生や職員の得意分野を生 かした組織づくり	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> 児童指導に関する情報共有の機会を 定期的に設けるなど、職員全員が協力し て組織的に業務に取り組んできた。 【次年度の方針】 ・来年度も、皆が気軽に相談し合えるよ うな、職場環境づくりを目指し、報告・ 連絡・相談を確実にを行い、日々のコミュ ニケーションを大切にしていく。	児 童		保護者		地域住民		教職員	100%
児 童												
保護者												
地域住民												
教職員	100%											
4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A 16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組ん でいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・業務内容の明確化 ・学校の組織運営や各種行事等の精 選や実施方法の工夫・改善 ・学習情報システム等の各種システ ムの効果的な活用の推進 ・担当業務の効率的な実施や見通し を持った計画的な処理	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100% ↑</td></tr></table> 行事の精選や日課の見直しなどを図 り、業務の効率化に取り組んできた。学 習情報システム等の各種システムの活 用を図り、業務の効率化ペーパーレス化 を促進した。 【次年度の方針】 ・来年度も引き続き、行事の精選や日課 の見直し、I C Tの効果的な活用を推進 していく。	児 童		保護者		地域住民		教職員	100% ↑
児 童												
保護者												
地域住民												
教職員	100% ↑											

5-（1） 全市的な学校運営・教育活動の充実	A 17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	・小中の相互乗り入れ授業を計画的に実施する。 ・小中合同の行事やあいさつ運動に積極的に取り組む。 ・小中一貫教育だよりの配付 ・宮っ子チャレンジウィークにおける積極的な受け入れ	B 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>93.4%</td><td>↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>83.3%</td><td>↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td><td>↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td></td></tr></table> 乗り入れ授業やブレックスを招いての小中合同あいさつ運動を実施した。また、冒険活動教室での交流やSDGs活動についてオンラインを活用した交流も実施した。 【次年度の方針】 ・地域学校園の小中学校と協力し、継続して取組を行っていく。 ・オンラインを活用した取組を工夫していく。	児 童	93.4%	↓	保護者	83.3%	↓	地域住民	100%	↑	教職員	100%	
児 童	93.4%	↓													
保護者	83.3%	↓													
地域住民	100%	↑													
教職員	100%														
5-（2） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5-（3） 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A 18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	・地域人材の協力や企業・団体等との連携を図り専門性を生かした学習を推進する。 ・学校支援ボランティアの有効活用を推進する。	B 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>93.3%</td><td>↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>91.1%</td><td>↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td></td></tr></table> 地域人材や学校支援ボランティアの協力により、充実した教育活動ができた。そろばん学習においては、新たな支援者の先生にご指導いただくことができ、児童の学習意欲が高まった。 【次年度の方針】 ・今後も地域の教育力を活用したり、企業や団体等との連携を図ったりしながら、活動方法の工夫・改善に努める。	児 童	93.3%	↑	保護者	91.1%	↓	地域住民	100%		教職員	100%	
児 童	93.3%	↑													
保護者	91.1%	↓													
地域住民	100%														
教職員	100%														
6-（1） 安全で快適な学校施設整備の推進	A 19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	・毎月の安全点検の実施 ・危険箇所等の迅速な報告・修繕 ・消防隊員による実技指導等の職員研修及びその内容の校外への発信。 ・保護者と連携して環境整備等を行い、安全で安心な学校づくりに努める。	B 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td></td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.0%</td><td>↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td><td></td></tr></table> 保護者については、昨年度の肯定的回答の割合を下回ったが、9割以上の肯定的回答となった。安全な環境づくりに関する取組については、多くの肯定的回答を得ることができたため次年度も保護者や地域と連携を図りながら、実施していきたい。 【次年度の方針】 ・学校・保護者・地域・関係機関が相互連携して、安全で安心な学校づくりを推進する。 ・安全点検や清掃時等に修理・修繕が必要な箇所などを把握し、教職員で情報の共有や迅速な対応ができるようにする。 ・職員研修を通して、緊急時の対応について学べるようにする。	児 童			保護者	90.0%	↓	地域住民	100%		教職員	100%	
児 童															
保護者	90.0%	↓													
地域住民	100%														
教職員	100%														

6- (2) 学校のデジ タル化推進	A 20 コンピュータなどのデ ジタル機器やネットワ ークの点から、授業（授業 準備も含む）を行うため の準備ができています。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 95%以上	・ 授業準備や授業、業務の際の、一人 一台端末、学校用グループウェア、 校務支援システム、デジタル連絡ツ ールなどの積極的な活用 ・ I C T支援員との連携	A 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>1 0 0 %</td></tr></table> タブレット型パソコンのスクールタ クトやキャンバを活用して学習のまと めや発表をすることができた。また、ス マイルネクストドリルなど、積極的に I C T機器を活用する学習に取り組んだ。 クラスルームを活用して、児童への連 絡や児童からの提出物の回収などに おいて、活用される場面が見られた。 【次年度の方針】 ・ 学習場面での調べ学習やまとめ・共同 的な学びなど、児童の学びが深まるよ うに、タブレット型パソコンの効果的な 活用を継続していく。	児 童		保護者		地域住民		教職員	1 0 0 %
	児 童										
保護者											
地域住民											
教職員	1 0 0 %										
小・中 学 校、地 域 学 校 共 通、 本 校 の 特 色 ・ 課 題 等	B 1 児童は、時と場に応じ たあいさつをしている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 80%以上	・ 家庭及び地域協議会と連携した地 域ぐるみの「あいさつ運動」の展開 ・ 小中合同の「あいさつ運動」の推進 ・ ホームページや、デジタル連絡ツ ールでの周知	B 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>9 3 . 3 % ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>7 8 . 5 % ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>1 0 0 % ↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>8 8 . 9 % ↓</td></tr></table> 学校や地域での挨拶の習慣化に努め てきたことで、地域住民の肯定的回答 が増えた。 【次年度の方針】 ・ あいさつがよくできている児童や学 年を称賛したり教室内で指導をしたり して、校内でのあいさつが習慣化でき るようにする。 ・ 家庭内でも、挨拶がきちんとできる ような児童の心や態度を育てていける ように、学校で指導する。	児 童	9 3 . 3 % ↓	保護者	7 8 . 5 % ↓	地域住民	1 0 0 % ↑	教職員	8 8 . 9 % ↓
	児 童	9 3 . 3 % ↓									
保護者	7 8 . 5 % ↓										
地域住民	1 0 0 % ↑										
教職員	8 8 . 9 % ↓										
	B 2 児童は、きまりやマナ ーを守って、生活をして いる。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・ 基本的生活習慣と規範意識の育成 ・ 規則の尊重、自律や諸問題の解決を 題材とした授業（道徳・学級活動等） の実施 ・ 「城央小のよい子」を活用した、統一 的・継続的な指導 ・ 家庭・地域・関係諸機関との連携	B 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>9 4 . 4 % ↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>8 7 . 7 % ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>7 7 . 8 % ↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>9 4 . 4 % ↓</td></tr></table> 学校全体で、統一的・継続的な指導を 行ったため、児童の肯定的回答が上昇 した。 【次年度の方針】 ・ 「城央小のよい子」をベースに、全職 員の共通理解のもとで指導・支援にあ たり、児童一人一人がきまりやマナー を守って生活できるよう、根気強く取 り組む。 ・ 個人懇談や学級懇談会、HP や学校 だよりで、学校での取り組みについて積 極的に保護者に周知していく。	児 童	9 4 . 4 % ↑	保護者	8 7 . 7 % ↓	地域住民	7 7 . 8 % ↓	教職員	9 4 . 4 % ↓
児 童	9 4 . 4 % ↑										
保護者	8 7 . 7 % ↓										
地域住民	7 7 . 8 % ↓										
教職員	9 4 . 4 % ↓										

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

A 1「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」の肯定的回答の割合は、児童、教職員、保護者ともにすべて昨年度より上昇した。教職員が使命感をもって学習指導に取り組んでいる結果が表れている。引き続き、児童の実態に応じた授業展開ができるように、校内研修の機会などを生かして、取り組んでいきたい。

○A 3「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」については、保護者の肯定的回答割合が数値指標を上回った。HP等で児童の前向きな姿を伝えてきた成果だと考える。一方で、児童・教職員において肯定的回答割合が数値指標を下回った。昨年度は数値指標を上回っていたため、より高い目標を意識して指導にあたってきたことも一因であると考えられる。今後は、校内外における児童一人一人の頑張りを教職員間で積極的に情報共有し、様々な視点から児童の前向きな姿を捉え、励ましながら指導していきたい。

○A 5「児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。」の児童の肯定的回答の割合が昨年度よりも下回っている。キャリアパスポートの効果的な活用を検討し、児童が自分の良さや成長を実感できるようにしていきたい。また、縦割り清掃やまごころ清掃だけではなく、異学年での交流に積極的に取り組めるように、検討していく。

・A 7「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。」の児童の肯定的回答の割合が昨年度よりも上昇している。宇都宮学や総合的な学習の時間における調べ学習などを通し、地元大谷だけではなく宇都宮市全体の理解が深まっている。今後も、引き続き地域学習に積極的に取り組んでいく。

○A 9「児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」の児童の肯定的回答の割合が昨年度より上昇した。各教科の学習の中でも取り上げる機会が多く、SDGs についての関心や理解が深まった一方で、日々の生活の中で意識できていない部分もある。自分の持ち物を大事に使うことや周りの人やものを大切にすることなど、学習したことを日常生活に生かせるように指導していく。

○A 14「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」については、数値指標は達成しているものの、昨年度に比べ、児童や保護者からの肯定的な回答が低下している。学校だよりやホームページ等を通じて、児童へのきめ細やかな指導や学力向上に向けた取り組みをより積極的に発信し、保護者の理解を深めていきたい。

7 学校関係者評価

・A 11「教職員はいじめが許されない行為であることを指導している」の保護者の肯定的回答の割合が70.2%であったことについて、教職員はいじめられている子がいないか日頃から目配りをして、児童が教職員に言いづらいことはなにか見ていく必要がある。また他の児童から友達の様子を聞いたり、いじめに関するアンケート調査の工夫も考えたりするとよい。保護者の肯定的回答の割合は下がったが、児童の肯定的回答の割合は、98.9%であることから、今後も引き続きの指導をお願いしたい。

・B 1「児童は時と場に応じたあいさつをしている」の地域住民の肯定回答の割合が昨年度より上昇し、100%となった。児童の登下校時に地域の方からあいさつや温かな声掛けをしていただき、児童はあいさつの良さを実感をもって知り、実践できるようになっている。来校者への児童のあいさつの様子について褒めていただくことが増えているので、引き続きあいさつの指導を行っていくとよい。

・B 2「児童はきまりやマナーを守って、生活をしている。」の地域住民の肯定回答の割合が77.8%であった。道路の歩行や公園での過ごし方等公共の場では、決まりやルールを守り、自分だけでなく周りの人にとっても気持ちのよい使い方や過ごし方ができるよう、指導を継続していくとよい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校・保護者・地域で連携を図り、協力しながら「学校ビジョン」の達成を目指して取り組んできた。評価項目についての肯定的回答の割合については、ポイントが上昇したものの下降してしまったものと様々であったが、これまでの取組を振り返り、修正・改善を加えながら実施してきた取組をさらに充実させながら再構築していくことで、これまで以上に地域に信頼され、地域の核となる学校づくりを推進していきたい。そのために、下記のような3つのプロジェクトを組織し、全職員が学校経営に参画できる工夫を行い、次年度の学校ビジョンに反映させていく。

